九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

噺本類の仮名表記表 ： 「故（に）」類・「男」類・「通る（す）」類の一覧

矢野, 準
福岡女子大学教授

https://doi.org/10.15017/8982

出版情報：文獻探究. 40, pp.31-43, 2002-08-31. 文献探究の会
バージョン：
権利関係：

［調査報告］

噺本類の仮名表記表

――「故(に)」類・「男」類・「通る(す)」類の一覧――

矢野　準

報告者は、拙稿「「ゆへ」から「ゆゑ」に」（『国語語彙史の研究21』和泉書院　二〇〇二・三刊、以下前稿と称す）において、草双紙類百五十作品を資料として、「故(に)」類・「男」類・「通る(す)」類の仮名表記（仮名遣い）の実態調査の報告を行なった。そして、そこでは、「百五十種の草双紙の三種の語群の表記実態からは、享和年間あたりを境に仮名遣いのあり様に変化の兆しが見えた。現時点で、その要因を解明することは、むつかしいが、契沖仮名遣的な仮名表記への志向の流れは否定できないものであろう。そして、そのことは、当初比較的安定していた仮名遣いが、時代が下るに従い、不安定化（揺れが増加）したかのようにも見せることになった。それは、仮名表記のあり様の交替期における併存によるものと思われる」と見通しを述べた。

勿論、この調査はたかだか百五十種と「草双紙類の一斑に過ぎず、作者の偏りなども否定できず、この結果を以て全体を云々するのは早計」ともいえ、今後も草双紙類のデータを蓄積していくことの必要なことはいうまでもない。しかし、データの蓄積という点からは、草双紙類の調査にとどまっていることも、また、問題であろう。前稿の注(9)でも「正確な資料を揃えての事ではないが、咄本類でも享和期以降の作品で「ゆゑ」形が多く見られはじめるように思われる」と単なる印象をもって比較対照をするにとどまっていた。そこで、この印象の是非を確認する意味も含め、今回は、近世の全期にわたって刊行されている噺本類を調査対象にし、先の三種の語群の表記実態を報告することにした。

調査は、武藤禎夫・岡雅彦両氏編『噺本大系第一巻』（東京堂出版一九七九・一一刊）～『噺本大系第十六巻』（東京堂出版一九七五・一一刊）に収録された二百五十四種の噺本を対象とした。[注1] なお、実際の調査には、安永尚志氏（代表）製作「日本古典文学作品本文データベース（噺本大系）試験版本文ＣＤ－ＲＯＭ」（一九九四・二）の電子テキストを使用した。版のあり様が複雑な噺本類を資料として仮名遣いを考えようとする場合、右のごとき方法に問題なしとしないが、比較対照群のデータとしては全体的な傾向を見ることも必要と考え、あえてこの方法によった。それ故、ここでは、とりあえず、調査結果を次頁以下の表に提示するにとどめる。

この表によれば、前稿で示した草双紙の場合程、明瞭に享和年間あたりを境としてとはいえないようである。嘶本類の場合、作品の刊行年と版の作成時とのズレによる問題など版のあり様の複雑さもあり、傾向がみえにくいということも考えられるのであるが、個々の問題点の検討による修正は後考に俟ちたい。ただ、大きな流れとしては三語群とも、近世期後半に、契沖仮名遣い的な表記形が増加する傾向を看て取ることはできそうに思われる。[注2]

表

編著者名	作品名	刊行(成立)年等	故(に)類 ゆへ	故(に)類 故ゆへ	故(に)類 ゆゑ	故(に)類 故ゆゑ	故(に)類 ゆえ	男類 おとこ	男類 男お	男類 をとこ	男類 男を	通る・通す類 とをる	通る・通す類 通とを	通る・通す類 とおる	通る・通す類 通とお	通る・通す類 とふる	通る・通す類 通とふ	通る・通す類 とうる	通る・通す類 通とう	通る・通す類 とほる	通る・通す類 通とほ	所収巻名
	寒川入道筆記	慶長十八(一六一三)年成	11																			一
	戯言養気集	慶長・元和頃刊	6							1												一
	きのふはけふの物語(古活字十行本)	元和・寛永頃刊	13					9				3										一
	きのふはけふの物語(古活字八行本)	元和・寛永頃刊	11					5		1		6										一
	きのふはけふの物語(整版九行本)	寛永十三(一六三六)年刊	16					34	1	2	1	10										一
	わらいくさ	明暦二(一六五六)年刊						13														一
	百物語	万治二(一六五九)年刊	9					2	2			2										一
安楽庵策伝	醒睡笑	元和九(一六二三)年序	33	4				3	8			28						1				二
浅井了意	かなめいし	寛文三(一六六三)年頃刊	8					4				1										三
径山子 序	理屈物語	寛文七(一六六七)年刊	81		3			1	1			1										二
	一休はなし	寛文八(一六六八)年刊	7						1			1										三
中川喜雲 編	私可多咄	寛文十一(一六七一)年刊	25					10				18										一
	一休関東咄	寛文十二(一六七二)年刊	13					3				9										三
浅井了意	狂歌咄	寛文十二(一六七二)年刊	3					6	2			2										三
	竹斎はなし	寛文十二(一六七二)年頃刊	3					1	6			4		1								三
	一休諸国物語	寛文末頃刊	21					7	1			18										三

	野本道元	「ひとり笑」の改題再板本）秋の夜の友	延宝五（一六七七）年刊	8																					
		囃物語	延宝八（一六八〇）年刊	6			3																		
		杉楊枝	延宝八（一六八〇）年刊	13	16																				
	艸田斎	新竹斎	貞享四（一六八七）年刊	6	3		1																		
		篭耳	貞享四（一六八七）年刊	24																					
		二休咄	貞享五（一六八八）年刊	7	2																				
	山雲子　序	宇喜蔵主古今咄揃	延宝六（一六七八）年刊	5			2																		
		当世軽口咄揃	延宝七（一六七九）年刊	17	1																				
		軽口大わらひ	延宝八（一六八〇）年刊	9			3																		
		当世手打笑	延宝九（一六八一）年刊	3			1																		
	一笑軒　叙	当世口まね笑	延宝九（一六八一）年刊	8			17																		
	鹿野武左衛門	鹿野武左衛門口伝はなし	天和三（一六八三）年刊	12			11																		
	鹿野武左衛門	鹿の巻筆	貞享三（一六八六）年刊	10			6																		
	石川流舟	正直咄大鑑	貞享四（一六八七）年刊	11			2																		
		当世はなしの本	貞享頃刊か	2			1																		
	鹿野武左衛門など	枝珊瑚珠	元禄三（一六九〇）年刊	2			1																		
	露五郎兵衛	軽口露がはなし	元禄四（一六九一）年刊	3		1	8																		
		（「秋の夜の友」の改題再板本）恵宝の春駒	元禄六（一六九三）年刊	3																					
		遊小僧	元禄七（一六九四）年刊	3			1																		
		諸国落首咄	元禄十一（一六九八）年刊	8	2		1																		
	寓言子　序	初音草噺大鑑	元禄十一（一六九八）年刊	32	1		21																		
	露五郎兵衛	露新軽口はなし（但し板本の写）	元禄十一（一六九八）年刊	8			2																		
	露五郎兵衛	露五郎兵衛新はなし	元禄十四（一七〇一）年刊	2	1																				
	米沢彦八	軽口御前男	元禄十六（一七〇三）年刊	7			4																		
		軽口ひやう金房	元禄末頃刊か	12			10																		
1																									
2																									
3																									

編著者名	作品名	刊行(成立)年等	故(に)類 ゆへ	故(に)類 故(ゆへ)	故(に)類 ゆゑ	故(に)類 故(ゆゑ)	故(に)類 ゆえ	男類 おとこ	男類 男(お)	男類 をとこ	男類 男(を)	通る・通す類 とをる	通る・通す類 通(とを)	通る・通す類 とおる	通る・通す類 通(とお)	通る・通す類 とふる	通る・通す類 通(とふ)	通る・通す類 とうる	通る・通す類 通(とう)	通る・通す類 とほる	通る・通す類 通(とほ)	所収巻名
露五郎兵衛	軽口あられ酒	宝永二(一七〇五)年刊	4	1				3														七
	露休置土産	宝永四(一七〇七)年刊	5	1				3				1	2									七
	軽口星鉄炮	正徳四(一七一四)年刊	8					1	1					2								七
	軽口福蔵主(再板)	正徳六(一七一六)年刊	6	1				1	18			6	6									七
	軽口出宝台	享保四(一七一九)年刊	15	1				1	10			2	2									七
	軽口はなしとり	享保十二(一七二七)年刊	16					5				1										七
松泉 編	軽口機嫌嚢	享保十三(一七二八)年刊	2						1													七
環仲仙い三	座狂はなし	享保十五(一七三〇)年刊	5																			七
其磧	咲顔福の門	享保十七(一七三二)年刊	19					1	2													七
其磧	軽口独機嫌	享保十八(一七三三)年刊	17	2					1			6	7									七
和雄斉 序	軽口蓬莱山(改題再板本か)	享保十八(一七三三)年刊	6					4				2										七
東の鼠堂 序	(宝永五年「かす市頓作」の改題再板本)水打花	享保頃刊か	15					24	2			8										七
	軽口もらいゑくぼ	享保頃刊か	6	2									2		2							七
其摘	軽口初売買	元文四(一七三九)年刊			6			7	2					2								八
洛風子	軽口福おかし	元文五(一七四〇)年刊	23	3				3	4			2			1	1						八
洛風子	軽口新歳袋	元文六(一七四一)年刊	18	7				2	3						2							八
洛風子	軽口耳過宝	寛保二(一七四二)年刊	22	2				1	5			1	6									八
梅岸 序	軽口若夷(寛政五年改題再板「軽口噺物種」による)	寛保二(一七四二)年刊	10						1				4									八
東靄	軽口へそ順礼	延享三(一七四六)年刊	3									1								4		八
如毫 集	軽口瓢金苗	延享四(一七四七)年刊	5	1					4				1									八
似嘯 序	軽口笑布袋	延享四(一七四七)年刊	1	2				1				1										八
探華亭羅山 序	軽口浮瓢単	寛延四(一七五一)年刊	22							7			5									八

矢木鰭輔	軽口腹太皷	宝暦二(一七五二)年刊	5																					九
故応斎玉花 序	軽口豊年遊（宝永六年「軽口野鉄砲」の改題再板本）軽口福徳利	宝暦三(一七五三)年序	13																					九
聞遊閣笑楽	軽口合恵宝袋	宝暦四(一七五四)年序	26	2																				九
春松子	軽口東方朔	宝暦五(一七五五)年刊	18																					九
並木正三	軽口扇の的	宝暦十二(一七六二)年序	5	10																				九
並木正三 序	軽口はるの山	宝暦十二(一七六二)年序	9																					九
	軽口片頬笑	明和五(一七六八)年刊	8																					九
木室卯雲	鹿の子餅（稿話）	明和七(一七七〇)年刊	29	2																				八
稲穂 序	楽牽頭（珍話）	明和九(一七七二)年刊	1																					八
舞蝶亭一睡 序	軽口大黒柱	明和九(一七七二)年序	7																					九
小松百亀	聞上手	安永二(一七七三)年刊	5																					九
宇津山人菖蒲房序	飛談語（興話）	安永二(一七七三)年序	5																					九
稲穂 序	坐笑産（楽牽頭後篇）	安永二(一七七三)年刊	7																					九
軽口耳秡	口拍子（俗談）	安永二(一七七三)年序	3																					九
書苑武子 編	今歳咄（落咄 口拍子二編）	安永二(一七七三)年跋	23	1																				九
不知足散人 序	聞上手 二篇	安永二(一七七三)年序	4	2																				九
奇山 序	聞上手 三篇	安永二(一七七三)年序	5		1																			九
稲穂 序	近目貫 三編（座笑産後篇）	安永二(一七七三)年序	2																					九
書苑武子 序	御伽噺	安永二(一七七三)年序	4																					九
能楽斎 序	千里の翅（当世口合）	安永二(一七七三)年序	4			1																		九
即岳庵青雲斎 序	再成餅	安永二(一七七三)年序	7		1																			九
亀文子	都鄙談語（興話） 三篇	安永二(一七七三)年序	9																					九
古喬子	芳野山	安永二(一七七三)年序	2																					九
夢楽庵 序	出頬題	安永二(一七七三)年序	3																					九

矢木鰭輔	軽口腹太皷	宝暦二(一七五二)年刊	12	20																				
故応斎玉花 序	軽口豊年遊（宝永六年「軽口野鉄砲」の改題再板本）軽口福徳利	宝暦三(一七五三)年序	5	3																				
聞遊閣笑楽	軽口合恵宝袋	宝暦四(一七五四)年序			3																			
春松子	軽口東方朔	宝暦五(一七五五)年刊				1	25																	
並木正三	軽口扇の的	宝暦十二(一七六二)年序			2		2	5																
並木正三 序	軽口はるの山	宝暦十二(一七六二)年序	2			2																		
	軽口片頬笑	明和五(一七六八)年刊	5																					
木室卯雲	鹿の子餅（稿話）	明和七(一七七〇)年刊		7																				
稲穂 序	楽牽頭（珍話）	明和九(一七七二)年刊	1																					
舞蝶亭一睡 序	軽口大黒柱	明和九(一七七二)年序																						
小松百亀	聞上手	安永二(一七七三)年刊		7																				
宇津山人菖蒲房序	飛談語（興話）	安永二(一七七三)年序			1																			
稲穂 序	坐笑産（楽牽頭後篇）	安永二(一七七三)年刊	2																					
軽口耳秡	口拍子（俗談）	安永二(一七七三)年序	2																					
書苑武子 編	今歳咄（落咄 口拍子二編）	安永二(一七七三)年跋		2																				
不知足散人 序	聞上手 二篇	安永二(一七七三)年序	4																					
奇山 序	聞上手 三篇	安永二(一七七三)年序		2																				
稲穂 序	近目貫 三編（座笑産後篇）	安永二(一七七三)年序			1																			
書苑武子 序	御伽噺	安永二(一七七三)年序			1																			
能楽斎 序	千里の翅（当世口合）	安永二(一七七三)年序			5																			
即岳庵青雲斎 序	再成餅	安永二(一七七三)年序		7																				
亀文子	都鄙談語（興話） 三篇	安永二(一七七三)年序			2																			
古喬子	芳野山	安永二(一七七三)年序	5																					
夢楽庵 序	出頬題	安永二(一七七三)年序				1	1																	

編著者名	作品名	刊行(成立)年等	故(に)類 ゆへ	故(に)類 故(ゆへ)	故(に)類 ゆゑ	故(に)類 故(ゆゑ)	故(に)類 ゆえ	男類 おとこ	男類 男(お)	男類 をとこ	男類 男(を)	通る・通す類 とをる	通る・通す類 通(とを)	通る・通す類 とおる	通る・通す類 通(とお)	通る・通す類 とふる	通る・通す類 通(とふ)	通る・通す類 とうる	通る・通す類 通(とう)	通る・通す類 とほる	通る・通す類 通(とほ)	所収巻名
書苑武子 編	説話仕形噺	安永二(一七七三)年刊	15						1													九
百尺亭竿頭 序	安永新板絵入軽口五色帋	安永三(一七七四)年刊	18					1	6							4	1					十
渡辺僕 序	茶のこもち	安永三(一七七四)年刊	8									1					1					十
千三ッ万八郎 序	新口稚獅子	安永三(一七七四)年刊	17		1				1			2	1	1			2					十
雛肋斎画餅 序	富来話有智	安永三(一七七四)年序	2																			十
龍耳斎聞取 序	(安永二年「新口吟咄川」嗣足改題再板本)新口花笑顔	安永四(一七七五)年刊		1				1	4			5				3						十
来風山人 序	新落はなし一のもり	安永四(一七七五)年序	7																			十
不知足	聞童子	安永四(一七七五)年序	5					2				1										十
志滴斎 序	軽口駒佐羅衛	安永五(一七七六)年刊	17		1				1													十
対山 序 下物 跋	年忘噺角力	安永五(一七七六)年刊	11					2	1			2										十
整ゝ畔市和 序	売言葉	安永五(一七七六)年刊	17					1				1										十
来風山人 序	鳥の町	安永五(一七七六)年序	15		2								1									十
	新口一座の友	安永五(一七七六)年序	1					2								1						十
常笋亭君竹 撰	一の富	安永五(一七七六)年刊	3		2				6			1				4						十
後素軒蘭庭 撰	立春噺大集	安永五(一七七六)年刊	13												1							十
彡甫先生作 陳奮翰 撰	立春噺大集	安永五(一七七六)年刊	16																			十
参詩軒素従 撰	高笑ひ	安永五(一七七六)年序	6		1																	十
山手ノ馬鹿人此楓 序	蝶夫婦	安永六(一七七七)年刊	9																			十
多倉太伊助	春伺	安永六(一七七七)年刊	17																			十
糟喰人月風序 李日散人 跋	管巻	安永六(一七七七)年刊	1						3													十
橘香亭瓶吾 撰	咄の会七席目時勢話大全	安永六(一七七七)年刊	5					1														十

必ミ舍馬宥 撰	咄の会七席目時勢話綱目	安永六(一七七七)年刊	9																					
伽藍堂無銘 序	喜美賀楽寿 初篇	安永六(一七七七)年序																						
	さとすゞめ	安永六(一七七七)年序	5	1																				
馬場雲皷 序跋	鹿子餅後篇 譚嚢	安永六(一七七七)年序	1																					
千金子	春笑一刻	安永七(一七七八)年刊	5	1																				
風来散人 序	乗合舟	安永七(一七七八)年刊	7																					
泥田坊 序	今歳笑	安永七(一七七八)年序	2																					
大食堂満腹	福の神	安永七(一七七八)年序	13																					
新場老漁叙(南畝)	鯛の味噌津	安永八(一七七九)年刊	2	1																				
志丈 撰	寿々葉羅井	安永八(一七七九)年刊	9																					
黒狐通人 序	気のくすり	安永八(一七七九)年刊	11																					
放口斎千冲	御笑酒宴	安永八(一七七九)年序																						
	珍話金財布	安永八(一七七九)年序か	1																					
四方赤良序(南畝)	万の宝	安永九(一七八〇)年刊	6	2																				
神真人 序	落噺大御世話	安永九(一七八〇)年刊	3	1																				
	落噺し明朝梅	安永九(一七八〇)年刊	2																					
	初登	安永九(一七八〇)年序	4	1																				
夢多楽舎出法題	落噺鼠の笑	安永九(一七八〇)年序	3	1																				
	笑長者	安永九(一七八〇)年序	7	2																				
新場散人序(南畝)	当世新話はつ鰹	安永十(一七八一)年序	1																					
不知庵井蛙 序	(安永六年「笑の種」の再板本 嗣足改題)いかのぼり	安永十(一七八一)年序	13	3																				
無尺舍主人下物叙	豆談語	安永年間刊	2																					
必ミ舍 馬宥 跋	春帖咄	天明二(一七八二)年刊	7																					
朋誠堂喜三二	新作狂笑顔はじめ	天明二(一七八二)年序か	9	5	1																			
	柳巷訛言	天明三(一七八三)年刊	8	1																				
					1																			
					6																			

編著者名	作品名	刊行(成立)年等	故(に)類 ゆへ	故(ゆへ)	ゆゑ	故(ゆゑ)	ゆえ	男類 おとこ	男(お)	をとこ	男(を)	通る・通す類 とをる	通(とを)	とおる	通(とお)	とふる	通(とふ)	とうる	通(とう)	とほる	通(とほ)	所収巻名
無尺舎主人下物叙 必ミ舎 馬宥 跋	歳旦話	天明三(一七八三)年刊	5																			±
無尺山人 序	夜明烏	天明三(一七八三)年刊	36	1																		±
清遊軒 序	落咄人来鳥(黄表紙細工本)	天明三(一七八三)年刊	1																			±
山堂京天 序	福喜多留	天明五(一七八五)年序か	16					1														±
茶楽亭 序	福茶釜	天明六(一七八六)年序	8																			±
春町・喜三二・行町	百福物語	天明八(一七八八)年序	9																			±
無辺斉 撰	千年草	天明八(一七八八)年序	4	4																		±
一ッ分ッ万十	咄落はつわらい	天明八(一七八八)年序か	7							1												±
虎渓山人 序	独楽新話	天明八(一七八八)年刊か	10	1							2											±
石部金好	笑の種蒔	天明九(一七八九)年序	2								1											±
改年堂御慶序(南畝)	うぐひす笛	天明頃刊	4																			±
鉄棒序(北斎か)	間女畑	天明頃刊	3						1													±
白川与布祢 序	落話花之家抄	寛政二(一七九〇)年序	7						1													±
振鷺亭主人	振鷺亭噺日記	寛政三(一七九一)年序	3																			±
曼亭鬼武	和良吐富貴樽	寛政四(一七九二)年序	10						1													±
桜川慈悲成 序	笑の初り(嗣足再板本か)	寛政四(一七九二)年序	4						1													±
麻布光交 序	拍子幕	寛政四(一七九二)年序か	2																			±
曲亭馬琴 叙	笑府衿裂米(黄表紙細工本)	寛政五(一七九三)年序						3														±
	軽口四方の春	寛政六(一七九四)年刊	26	1							18		2									±
山東京伝 閲	滑稽即興噺	寛政六(一七九四)年刊	35	1				1			4				8							±
山旭亭 叙	わらひ鯉(細工本)	寛政七(一七九五)年序	19					1			1										1	±
悦笑軒筆彦	軽口筆彦咄	寛政七(一七九五)年序	19	2				7			3											±

虫所の聾人 序	鳩潅雑話	寛政七(一七九五)年序	12																				
美満寿 連	喜美談語	寛政八(一七九六)年刊	13	23	2																		
振鷺亭主人	噺手本忠臣蔵	寛政八(一七九六)年刊	6																				
一雄序 酒屋隣跋	雅興春の行衛	寛政八(一七九六)年刊	5	2																			
烏亭焉馬 撰	落噺詞葉の花	寛政九(一七九七)年刊	13	1																			
西口舎可候	臍が茶	寛政九(一七九七)年刊	32	1																			
柳庵主人	巳入吉原井の種	寛政九(一七九七)年刊	1	1																			
慶山他	噺新庚申講	寛政九(一七九七)年刊	5	2																			
野暮天	新話違なし	寛政九(一七九七)年刊	13	2																			
焉馬 撰	噺落無事志有意	寛政十(一七九八)年跋	23	1																			
桜川慈悲成 序	作新鶴の毛衣	寛政十(一七九八)年序	8																				
墨洲山人 序	新玉箒	寛政十(一七九八)年序	3	2																			
魯道 序	新製欣〻雅話	寛政十一(一七九九)年刊	7																				
正徳鹿馬輔 序	意戯常談	寛政十一(一七九九)年序	10																				
曲亭馬琴 撰	新作塩梅余史	寛政十一(一七九九)年序	6																				
桜川慈悲成 編	腮の掛金	寛政十一(一七九九)年跋	3																				
桜川慈悲成 序	虎智のはたけ	寛政十二(一八〇〇)年刊	3			1																	
麒麟館慶山 序	慶山新製曲雑話	寛政十二(一八〇〇)年刊	14	1																			
桜川慈悲成 序	新作落咄馬鹿大林	寛政十三(一八〇一)年刊	3																				
桜川慈悲成 編	滑稽好	寛政十三(一八〇一)年刊	1																				
山東京伝	太郎花(黄表紙細工本)	寛政頃刊	4			4																	
百川堂潅河 序	新撰勧進話	享和二(一八〇二)年刊	15																				
十返舎一九 序	笑の友	享和一(一八〇一)年刊	15																				
録山人信普 叙	落咄臍くり金	享和二(一八〇二)年序	13			2																	
	そこぬけ釜	享和二(一八〇二)年序	11	1		2																	

編著者名	作品名	刊行(成立)年等	故(に)類 ゆへ	故(ゆへ)	ゆゑ	故(ゆゑ)	ゆえ	男類 おとこ	男(お)	をとこ	男(を)	通る・通す類 とをる	通(とを)	とおる	通(とお)	とふる	通(とふ)	とうる	通(とう)	とほる	通(とほ)	所収巻名
桜川慈悲成	一口饅頭	享和二(一八〇二)年序	2					1			**1**	1										十四
鶏楼五徳	御贔屓咄の親玉	享和二(一八〇二)年序	5						1													十四
三笑亭可楽	落咄山しよ味噌	享和二(一八〇二)年序か	2																			十四
桜川慈悲成	珍学問	享和三(一八〇三)年刊	10					5							4							十四
春日亭花道 千差亭万別 撰 桜川慈悲成 叙	花の咲	享和三(一八〇三)年刊	8						2					1								十四
	福山椒	享和三(一八〇三)年序	6									1										十四
浮世絵摺安	落咄のぞきからくり	享和三(一八〇三)年序	7										2									十四
玉路堂左牛 序	新撰軽口麻疹噺	享和三(一八〇三)年刊	10																			十四
三笑亭可楽	東都真衛	享和四(一八〇四)年刊	2																			十四
十返舎一九	落咄腰巾着	享和四(一八〇四)年刊	6						1													十四
十返舎一九	笑府商内上手	享和四(一八〇四)年序	6						2													十四
阿金堂一蒔	新作落語蛺蝶児	文化二(一八〇五)年刊																				十四
馬笑 三笑 三鳥	諢話江戸嬉笑	文化三(一八〇六)年序																				十四
十返舎一九	落咄見世びらき	文化三(一八〇六)年序	6					9				3										十四
花月斎雪兼 序	正月もの	文化三(一八〇六)年序							2				2									十四
瓢亭百成	瓢百集	文化四(一八〇七)年刊	1									1										十四
十南斎一九	玉尽一九噺	文化五(一八〇八)年刊	10																			十四
十返舎一九	妙伍天連都	文化八(一八一一)年刊	2					2														十四
三笑亭可楽	(文化五年「噺の百千鳥」の副題改題再板本)新作種がしま	文化八(一八一一)年頃刊	2																			十四
桂文治	新選臍の宿かえ	文化九(一八一二)年刊	49						3													十四
緑亭可山	よりどりみどりはなし句応	文化九(一八一二)年序	1					4														十四
浪華一九 閲	会席噺袋	文化九(一八一二)年刊	10						3													十四

万載亭 千束舎	文化九(一八一二)年序か	2																					
瓢亭百成	文化十(一八一三)年刊	1																					
立川銀馬	文化十(一八一三)年刊																						
恋川春町二世	文化十一(一八一四)年刊	1																					
立川銀馬	文化十一(一八一四)年序	2																					
(瓢子)	文化十一(一八一四)年頃序	4																					
一九老人 谷十丸輯	文化十一(一八一四)年刊	9																					
一九老人 谷十丸輯	文化十一(一八一四)年刊	3																					
美屋一作	文化十三(一八一六)年頃刊	12																					
十返舎一九 序	文化十五(一八一八)年序	5																					
曼亭鬼武 序	文化頃刊	12																					
	文化頃刊	12																					
珍蝶亭夢楽	文化頃刊	3																					
小野秋津 撰	文政二(一八一九)年刊	2																					
東里山人	文政四(一八二一)年刊	8																					
桂文来	文政五(一八二二)年刊	28																					
暁鐘成	文政六(一八二三)年刊	16																					
桜川慈悲成	文政七(一八二四)年刊	4																					
旭文亭 序	文政七(一八二四)年序	9																					
三笑亭可楽	文政八(一八二五)年刊	2																					
林屋正蔵	文政九(一八二六)年刊	7																					
和来山人	文政九(一八二六)年刊	3																					
晞幹堂主人 序	文政十二(一八二九)年刊	1																					
都喜蝶	文政十三(一八三〇)年刊	3																					
	文政頃刊																						
(安永末頃「即席料理」の嗣足改題再板本)落咄新作福三笑	文化九(一八一二)年序か	2																					
百生瓢	文化十(一八一三)年刊	1																					
藩はなし笑嘉登	文化十(一八一三)年刊																						
落噺駅路馬士唄 二篇	文化十一(一八一四)年刊	1																					
富久喜多留 おとし譚	文化十一(一八一四)年序	2																					
山の笑	文化十一(一八一四)年頃序	4																					
璃寛芝翫花競二巻噺(芝翫)	文化十一(一八一四)年刊	9																					
璃寛芝翫花競二巻噺(璃寛)	文化十一(一八一四)年刊	3																					
落咄熟忠柿	文化十三(一八一六)年頃刊	12																					
落咄口取肴	文化十五(一八一八)年序	5																					
一雅話三笑	文化頃刊	12																					
新作落咄無塩諸美味	文化頃刊	12																					
笑ふ門	文化頃刊	3																					
落噺恵方棚	文政二(一八一九)年刊	2																					
仕形落語工風智恵輪	文政四(一八二一)年刊	8																					
春興噺万歳	文政五(一八二二)年刊	28																					
小倉百首類題話	文政六(一八二三)年刊	16																					
落噺屠蘇喜言	文政七(一八二四)年刊	4																					
新作咄土産	文政七(一八二四)年序	9																					
俳諧百の種	文政八(一八二五)年刊	2																					
軽口頓作ますおとし	文政九(一八二六)年刊	7																					
落噺顋懸鎖	文政九(一八二六)年刊	3																					
七福神落噺	文政十二(一八二九)年刊	1																					
御かけ中道噺栗毛	文政十三(一八三〇)年刊	3																					
初春仙女香の落噺し	文政頃刊																						
	文化九(一八一二)年序か	2																					
	文化十(一八一三)年刊	1																					
	文化十(一八一三)年刊																						
	文化十一(一八一四)年刊	1																					
	文化十一(一八一四)年序	2																					
	文化十一(一八一四)年頃序	4																					
	文化十一(一八一四)年刊	9																					
	文化十一(一八一四)年刊	3																					
	文化十三(一八一六)年頃刊	12																					
	文化十五(一八一八)年序	5																					
	文化頃刊	12																					
	文化頃刊	12																					
	文化頃刊	3																					
	文化頃刊	12																					
	文政二(一八一九)年刊	2																					
	文政四(一八二一)年刊	8																					
	文政五(一八二二)年刊	28																					
	文政六(一八二三)年刊	16																					
	文政七(一八二四)年刊	4																					
	文政七(一八二四)年序	9																					
	文政八(一八二五)年刊	2																					
	文政九(一八二六)年刊	7																					
	文政九(一八二六)年刊	3																					
	文政十二(一八二九)年刊	1																					
	文政十三(一八三〇)年刊	3																					
	文政頃刊																						

編著者名	作品名	刊行(成立)年等	故(に)類 ゆへ	故(ゆへ)	ゆゑ	故(ゆゑ)	ゆえ	男類 おとこ	男(お)	をとこ	男(を)	通る・通す類 とをる	通(とを)	とおる	通(とお)	とふる	通(とふ)	とうる	通(とう)	とほる	通(とほ)	所収巻名
林屋正蔵	女郎買の落し噺し	文政頃刊	1																			十五
三笑亭可楽	舎もの江戸かせぎ落し噺し	文政頃刊	3																			十五
林屋正蔵	かこいものの落し噺し	文政頃刊	1	1																		十五
花山亭笑馬撰 笠亭仙果閲	笑話の林(新作)	天保二(一八三一)年刊	5			5																十六
司馬斎次郎	十二支紫	天保三(一八三二)年刊				1																十六
安遊山人	落噺笑富林	天保四(一八三三)年刊	15	1		2																十六
三笑亭可楽	東海道中滑稽譚 初編	天保六(一八三五)年序	3			5																十六
柳下亭種員	笑語草かり籠	天保七(一八三六)年序																				十六
一筆庵 序	はなしの種	天保十(一八三九)年刊	10																			十六
蓬莱文暁聞書	新作可楽即考	天保十三(一八四二)年刊																				十六
花枝房円馬	面白艸紙噺図会	天保十五(一八四四)年刊	5																			十六
東里山人	古今秀句落し噺	天保十五(一八四四)年序																				十六
	噺の魁 二編	天保十五(一八四四)年頃刊	8						1													十六
五返舎半九	落噺千里藪	弘化三(一八四六)年刊	47			1																十六
	しんさくおとしばなし	弘化頃刊	3			1																十六
	噺大全	嘉永初年頃刊																				十六
谷峩	五返舎半九(天保八年「噺仕立おろし」の改題後摺本)落しばなし	嘉永三(一八五〇)年刊	16			2																十六
鶴亭秀賀	落噺笑種蒔	安政三(一八五六)年序	4					2														十六
春廼家幾久 山々亭有人校合	三都寄合噺	安政四(一八五七)年序				5		1														十六
文福社中	春色三題噺 初編	元治一(一八六四)年刊	46	2		4																十六
	梅屋集(追善落語)	慶応一(一八六五)年序	17			1																十六
	雨夜のつれ〴〵三題咄	明治初年頃刊	5	1						4												十六

| | | |